

「東三河県庁(仮称)設置に向けたアドバイザーボード」(第1回)の概要

1 日 時 平成 23 年 6 月 17 日 (金) 午後 1 時 30 分から午後 3 時まで

2 場 所 愛知県東三河総合庁舎 2 階 大会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 主な発言要旨

【地域づくり】

- ・ この地域には、対外的にアピールできる商品、伝統、文化がたくさんあるが、「ブランディング」、「マーケティング」で苦労している。大分県の一村一品運動のように、行政の側面的な支援が重要である。
- ・ 東三河に如何に若い人達を呼び込むか、若者にとって魅力のある地域づくりを考えていかなければいけない。
- ・ (新東名高速道路の)インターチェンジができた時には、奥三河は南北から東西の流れ、浜松への流れに変わってしまう。東三河一体論が薄くなってしまいかねないので、東三河県庁がどのように支えて、東三河を一体にもっていかを考えてほしい。
- ・ 東三河は山から海、都市まで、いろいろなプロジェクトや資源もあるが、全体として経営されていない。基盤を作って、それをどう使うか、地域経営としてどうしていくかが非常に重要である。例えば、三河港も経営を一体にすることも必要になってくる。
- ・ 自分達の大好きな街、大好きな地域をどうしたら来てもらえるか、住んでいる者が発信しなければいけない。都会にあって田舎にないものをねだるのではなく、あるものをどう活かすかが愛知県の魅力になると思う。

【地域連携】

- ・ 東三河は産学官でいろいろな共同作業をやっている地域性があるので、東三河の将来ビジョンも、産学官の取り組みを大きな柱として、地域の振興に繋げていけたらと考えている。
- ・ 東三河県庁は、県庁だけの話ではなく、市町村や民をどれだけ取り込んでプロジェクト、ビジョンを描けるかが次のステップにいくための課題である。東三河県庁は「東三河地域政府」というくらいで打ち出した方が良い。
- ・ 東三河は地域として一体化していく、三遠南信は事業として結んでいくという方向性で、そこをよく整理しながらやっていくことが重要である。
- ・ 愛知、静岡、長野の三遠南信地域の知事会議を復活させて、県境域の課題に取り組んでほしい。

【自治のあり方】

- ・ 地域主権という大きな流れの中で、東三河県庁は、三遠南信地域連携といった広域的な自治のあり方の先例、フロンティアになるものと期待している。
- ・ 東三河県庁というものをきっかけにして、県のあり方と市町村のあり方を、一緒に議論していくことが必要である。次の日本の形をどうしていくかのモデルだという感じがする。

【観光】

- ・ これからの観光は、個人客を意識した体験・遊びなどの楽しい「商品づくり」とインターネットを活用した「PR」の2つがセット。観光は総合産業であり、農業、水産業、自動車などの「連携」がキーワードとなる。行政には、「連携」の場をつくって参加してほしい。
- ・ 三遠南信など、広域的な魅力ある観光商品をつくろうと思えばできるが、今はそれぞれ独立してやっている。民の意見を取り入れながら、一緒に具体的なものをつくっていけるよう行政にはサポートをしてもらうのが良い。
- ・ 愛知のいちごやメロンや柿などのおいしい農産物を、採れたり、持って帰ることができたりというように観光に結び付けることで、もっとアピールできると思う。

【その他】

- ・ 食品の移動販売について、政令指定都市や豊橋市、岡崎市などの中核市では、県の保健所とは別に、それぞれの市で申請が必要になる。静岡などの他県では一本化している。自分達の力でできることは頑張るが、行政の難しいところは是非応援してほしい。
- ・ 農家の関心事というと、やはり「設楽ダム」の建設促進、早期着工が第一になる。
- ・ 花博の東三河への誘致を進めてほしい。

(文責：愛知県総務部総務課)